

# 平成29年度 広島県立広島南特別支援学校 研究紀要

## 研究テーマ「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」

Research theme : How to develop hearing-impaired children's ability to think.

### 概要

小学部・中学部・高等部は、平成27年度から1単位時間の授業の思考プロセスを①「つかむ・見通す」②「追究する」③「使ってみる・振り返る」とし、各過程での聴覚障害によるつまずきに対する指導・支援方法を考えた授業モデルに基づいて、実践研究を進めている。平成28年度の研究で、児童生徒自ら課題をつかもうとする力に課題が見られるという結果を踏まえ、平成29年度は「つかむ・見通す」に焦点を当て、児童生徒自らが課題を見付け、どうすれば解決できるかを主体的に考えられるような導入の工夫に取り組んだ。その結果、思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえた授業を実施し、児童生徒自らが課題を見付け、どうすれば解決できるかを既習の知識と関連付けて考えさせ、考えを言語化させる指導を行うことは、聴覚障害児の思考力を育てる上で有効であるといえる。

幼稚部では、話し合い活動において、発達段階を基にした発話内容の質的分析、発問等の教師の支援について検討した、この分析結果等を踏まえ、幼児の実態に応じた指導を効果的に行うことが、幼児の言語力・思考力を育てる上で有効であるといえる。

In the elementary, middle, and senior high faculties, since the 2015 school year, we continued using the three important thinking processes of each class, namely: ① to grasp the subject, ② to understand the subject, ③ to use the subject. We adjusted our teaching method in order to incorporate the three processes above, and we also took into consideration the students' abilities and handicap levels (including multiple handicaps in some cases). In the 2016 school year, students had some difficulties to grasp their own knowledge gaps sufficiently. Therefore, from the 2017 school year, we teachers have strived to focus on one of the three processes: namely number ①, to grasp the subject.

We have strived to improve the class introduction method in order to enable children to grasp their own knowledge gap and to address it sufficiently. As a result of using this process, It's enable for children to develop their own ideas based on their observations and reasoning. Therefore, when we educate toward hearing-impaired children's thinking skill, it seems effective to encourage hearing-impaired children to find their own knowledge gaps. It also seems effective to encourage them to use these cognitive processes for relating new materials to their previous knowledge, and then to express the results in Japanese. Within the kindergarten faculty, teachers analyzed children's conversations to determine the best questions to ask the students in order to promote this development. We have worked to improve children's linguistic and cognitive abilities by teaching them according to their level. This analyzation suggests that it is effective to consider children's ages and cognitive levels when planning and conducting lessons in order to develop their ability.

	幼稚部	小学部・中学部・高等部						
研究の目的	発達段階に応じ、幼児が思考を巡らせることができる話し合い活動を実践していくための指導の在り方を検討する。	思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえ、聴覚障害のある児童生徒の予想されるつまずきに対する指導・支援を考え実践することを通して、児童生徒の思考力を育てる指導の在り方を追究する。						
研究の仮説	話し合い活動において、発達段階を基にした発話内容の質的分析、発問等の教師の支援について検討し、幼児の実態に合った指導を効果的に行うことで、幼児の言語力・思考力を育てることができるであろう。	思考プロセス「3つの『つ』」、特に「つかむ・見通す」に焦点を当てた授業を実施するとともに、既習の知識と関連させて思考させ、考えを整理して意図的に言語化させることで、児童生徒の思考力を育てることができるであろう。						
検証の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話し合い活動の分析</li> <li>○「話し合い活動における言語発達段階評価表」を用いた評価</li> <li>○絵本を活用した言語力の評価</li> </ul>	<table border="1"> <tr> <td>小学部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○算数科説明力テスト</li> <li>○算数科単元テスト</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>中学部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul> </td> </tr> </table>	小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○算数科説明力テスト</li> <li>○算数科単元テスト</li> </ul>	中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul>	高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul>
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○算数科説明力テスト</li> <li>○算数科単元テスト</li> </ul>							
中学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul>							
高等部	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行動観察（1学期と2学期の比較）</li> <li>○定期試験の点数結果と記述内容の比較</li> </ul>							

「何を」勉強するのかな？  
今まで勉強したことと  
「何が」ちがうのかな？  
おもしろそう。  
やってみよう。  
どうして、そうなるのかな？

### 3つの「つ」

つかむ  
見通す

追究する

使ってみる  
振り返る

「何」を使って、  
「どのように」すれば  
よいか見通しを持つ。

「何」を使って、  
「どのように」すればよいか  
考え、説明する。


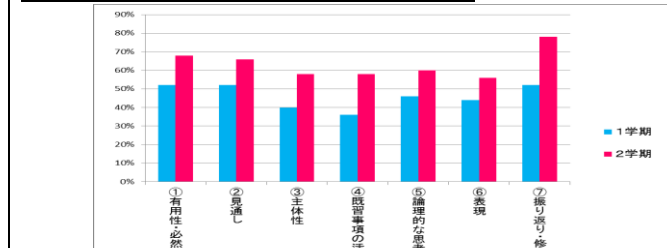
学習したことを使って、  
「どのように」するかを考える。

- ・APDCAサイクルにより、年に2回公開研究授業を実施
- ・同一授業者が、同一学級で研究授業を実施
- ・「聴覚障害教育」と「幼児教育」、  
「聴覚障害教育」と「教科教育」の両面から指導助言を受け、思考力を育てる指導の在り方を追究



# 研究テーマ「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」

## 検証結果

	幼稚園	小学部	中学部	高等部																																																			
取組	<p>○朝の会での話し合い活動における、幼児の発話内容、教師の指導についての分析</p> <p>○「話し合い活動における言語発達段階評価表」を用いて、幼児の実態を把握</p> <p>○トピックスの取り上げ方（子供たちからの話題から）</p> <p>○教室環境の整備（掲示物、生き物コーナー、制作コーナー）</p> 	<p>○思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえた板書の構造化</p> <p>○既習の知識と関連させて、どのように解決するか考えさせ考えを言語化させる指導</p> <p>○課題に取り組む必然性を持ち、自ら課題をつかんで見通しを持って学習できるような導入の工夫</p> <p>○行動観察の検証の視点に、「既習内容と本時の学習内容の違いに気付いて発言している（課題の把握）」の項目を追加</p> 	<p>○国語科における思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえた授業展開</p> <p>○既習の知識と関連させて思考させ、考えを整理して意図的に言語化させる指導</p> <p>○主体的に考えることができるような導入の仕方や課題設定の工夫</p> 	<p>○地理における思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえた授業展開</p> <p>○PPを用いた学習環境（具体的な情景や動き等を見て、イメージし、理解を深めていくことができる学習環境）</p> <p>○理解や考察に必要な重要語句やグラフ、ポスター等の常時掲示</p> <p>○思考の流れを表す学習プリント（接続詞の表示等）</p> <p>○言語活動</p> <p>①基礎知識の吸収、確認時における教員の質問への応答</p> <p>②考察など知識活用時の意見発表（説明）</p> <p>○小テストによる、細やかな理解度の把握と生徒への意識付け</p>																																																			
	<p>○話し合い活動の分析</p> <p>幼児の言語発達の実態については赤ペンで、教師の指導の妥当性等については青ペンで記入し、分析した。（一部抜粋）</p> <p>①ねえ、かみやませんせい、おばけのときは、ばつとやったら（床を触ったら）、ばつてなつて。自分のイメージしたことを相手に伝えている。言葉では伝えないが、動作が巧い。</p> <p>②「（繰り返し、かがんだり、起きたりする。）友達の話を聞き、やりたいことを理解し、一緒に遊ぼうとしている。」</p> <p>A: ばつ！（繰り返しおばけの真似をする）</p> <p>B: ねえ、かみやませんせい、おばけのときは、ばつとやったら（床を触ったら）、ばつてなつて。自分のイメージしたことを相手に伝えている。言葉では伝えないが、動作が巧い。</p> <p>T: えっ？おばけはこうやって（床に手をついて）、ふーっ！とやるの？子供たち、行動も真似して確認、行動をくり返し確認するだけでなく、言語化して返してあげてきた。</p> <p>記録を書き起こしながら、子供の経験や興味・関心、発達段階に照らし合わせ、発言や行動を分析できるようになってきた。その分析を基にした適切な支援がまだ十分にできていない。教師からの話題提供が多く、話も教師主体で展開されることが多い。</p> <p>○「話し合い活動における言語発達段階評価表」を用いた評価</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>II</td> <td>IV</td> <td>III</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>III</td> <td>V</td> <td>IV</td> </tr> </table> <p>I…2歳前、II…3歳、III…4歳、IV…5歳、V…6歳 3名とも、段階が変わるほどの伸びが見られた。</p> <p>○絵本を活用した言語力の評価</p> <p>絵本の決められたページを見て、幼児からの表出言語数と質的な側面から評価した。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>1学期</td> <td>1</td> <td>18</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[単1]</td> <td>[単8、叙10]</td> <td>[単8、叙7]</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>3</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td>[単2、叙1]</td> <td>[単5、叙15]</td> <td>[単8、叙12]</td> </tr> </table> <p>単…単語レベルでの表出、叙…叙述レベルでの表出 全員が1学期よりも表出が増えていることが分かった。叙述レベルで話すことが定着してきており、単語のみで答えることが少なくなった。</p>		A	B	C	1学期	II	IV	III	2学期	III	V	IV		A	B	C	1学期	1	18	15		[単1]	[単8、叙10]	[単8、叙7]	2学期	3	20	20		[単2、叙1]	[単5、叙15]	[単8、叙12]	<p>○行動観察（1学期と2学期の比較）</p>  <p>ほとんどの項目で向上が見られた。①の問題の読み取りに関しては、1学期2学期とも数値が高かった。②は、23%向上した。既習内容と本時の学習の違いを考えさせる指導をしてきた結果と考える。③は、31%向上した。既習事項と関連付けて考えさせることを意識して指導した結果と考える。⑤と⑥は、23%向上した。説明させることを意識して指導した結果と考える。</p> <p>○算数科説明カテスト（1学期と2学期の比較）</p> <p>【36+47の筆算の仕方の説明】（中学年の児童の記述原文のまま）</p> <p>6+7=13で十の位にくり上げて4+4=8 答えは、83です。</p> <p>→</p> <p>まず、一のくらいから計算します。 6+7=13 1は、十のくらいにくり上げて、4。 次に40+40=80 最後に、80+3=83です。</p> <p>順序を表す言葉を使って、順序立てて説明しようとするようになった。</p> <p>○算数科単元テスト（観点到達率の比較）</p> <table border="1"> <tr> <td>平成28年度</td> <td>観点</td> <td>考え方</td> <td>技能</td> <td>知識・理解</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>観点到達率</td> <td>64.5</td> <td>87.3</td> <td>85.6</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>観点</td> <td>考え方</td> <td>技能</td> <td>知識・理解</td> </tr> <tr> <td>2学期</td> <td>観点到達率</td> <td>67.9</td> <td>84.6</td> <td>85.6</td> </tr> </table> <p>平成28年度との比較では、「数学的な考え方」を問う問題での伸びがみられる。</p>	平成28年度	観点	考え方	技能	知識・理解	2学期	観点到達率	64.5	87.3	85.6	平成29年度	観点	考え方	技能	知識・理解	2学期	観点到達率	67.9	84.6	85.6	<p>○行動観察（1学期と2学期の比較）</p>  <p>①③については、他教科や実生活と関連付けて学習に有用性や必然性を持たせるなど、課題設定や導入の工夫を行ってきたことが数値の向上した理由の1つとして考えられる。②⑦については、生徒が見通しを持って主体的に取り組めるように、単元目標と毎時間のめあてを明確に示したり、振り返りシートに課題解決の過程と毎時間の気づきを記録させて学習内容が単元全体の課題解決につながっていると感じさせるように工夫してきた。④⑤⑥については、授業において個人思考・集団思考を通して、理解したことを繰り返し言語化（説明）させ、根拠を大切に思考させるように取り組んできたことが結果として表れてきている。</p> <p>○国語の定期試験（1学期と2学期の比較）</p> <p>点数推移においては、正答率が70%以上の生徒が増えた。行動観察における各項目の取組を行ってきたことや言語化させる取組を行ってきたことで、試験で記述する力や学習の理解度や思考する力が向上し、学力向上につながったと考えられる。</p>  <p>○記述内容（1学期と2学期の比較）</p> <p>（国語科「新聞を読み比べよう」の記述内容）</p> <p>ワークシート等を用いて思考を整理し、根拠を基に言語化させる取組の結果、「〇〇だから〇〇」など根拠を明確にして考えを整理したり、説明したりする力が定着してきた。</p>
	A	B	C																																																				
1学期	II	IV	III																																																				
2学期	III	V	IV																																																				
	A	B	C																																																				
1学期	1	18	15																																																				
	[単1]	[単8、叙10]	[単8、叙7]																																																				
2学期	3	20	20																																																				
	[単2、叙1]	[単5、叙15]	[単8、叙12]																																																				
平成28年度	観点	考え方	技能	知識・理解																																																			
2学期	観点到達率	64.5	87.3	85.6																																																			
平成29年度	観点	考え方	技能	知識・理解																																																			
2学期	観点到達率	67.9	84.6	85.6																																																			
考察	<p>これらの検証の結果、話題の取捨選択、幼児への言葉掛けや受け答え、教材教具・視覚情報の使用等の発達段階に合わせた教師の指導を検討し、幼児の興味・関心のあることから、話し合い活動を展開していくことが、思考力を高めるために有効であると考えられる。</p> <p>幼児の発達段階・興味・関心に合わせて話題を取捨選択し、その中で、何をねらうか、何の言葉を押さえるか等を意識しながら、活動を展開していくとともに、話し合い活動のきっかけとするために、幼児の興味・関心のあるものを探り、教室内の掲示物を整えたり、教室環境を整えたりしていくことが、今後も必要であると考えられる。</p>	<p>これらの検証の結果、思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえ、必然性を持たせられるような課題設定を工夫し、既習の知識と関連させて、どのように解決するか考えさせ、考えを言語化させる指導をすることは、思考力を育てる上で有効であると考えられる。</p> <p>しかし、授業の中では、問題を読んで情報を整理（分かることと、聞かれていることを発言）することはできているが、単元末テストの活用問題では、問題の情報を整理（何を問われているのか、何をどう活用して解決すればよいのか）することができず、正答率が下がっている。複数の既習事項を関連させて考えるような場面になると、何を問われて、どう解決していけばよいかを考えられない状況が見られるため、今後さらに複数の情報を関連付けた活用を意識した指導や、考えを表現させるための指導を充実させていく必要がある。</p>	<p>これらの検証の結果、「つかむ・見通す」「追究する」「使ってみる・振り返る」といった活動を通して、既習の知識と関連させて思考させ、意図的に言語化させることは、思考力や学力を向上させる取組の1つとして有効であると考えられる。また、他教科や実生活と関連付けて学習に有用性や必然性を持たせるなど、課題設定や導入を工夫することで意欲を持って考える様子が見られるようになった。</p> <p>しかし、既習の知識や経験と関連させ考えを整理する力については、定着が十分とは言えない。また、物事の裏にある背景や文に書かれていない心情を読み取るなど、文章を深く読解することについては課題が残る。言語力や意味理解の力を高め、文章を深く考えて読み取ることができるよう、引き続き、取り組んでいきたい。</p>	<p>これらの検証の結果、思考プロセス「3つの『つ』」を踏まえた授業展開において、PPによって考察や理解に必要な知識を理解でき、かつ、考察や理解に必要な重要語句等が常に掲示されている環境があること、そしてそれらの知識を活用して行う言語活動や、思考の流れを表した学習プリントに書き込む形で理解を更に深め、表現することは、生徒の思考力を育てる上で有効であったと考える。併せて、地理という教科の「論理を積み上げていく学習」という特性を考えると、上に示した結果は、必要知識を正しく理解し、それを基に現象の要因や関係性を考え、考えを整理した上で各事象や要因と繋げて考えていく力が生徒に付いてきていることを表していると判断する。</p> <p>生徒の実態に応じて取組を変えることはもちろんだが、一つのモデルとして、今後も継続・継承していきたい。</p>																																																			

## 思考力の向上 検証の結果



【幼稚部】

- 引き続き、幼児の思考力を高めるために、話題の取舍選択、幼児への言葉掛けや受け答え、教材教具・視覚情報の使用等、発達段階に合わせた教師の指導を検討し、幼児の興味・関心のあることから、話し合い活動を展開していく。


【小学部・中学部・高等部】

- 全国学力・学習状況調査や定期テスト等の結果から、複数の情報を整理して、問われている意図をつかんだ上で既習の知識とつなげて考える力や条件に合うように記述する力等には、まだ課題があることが明らかとなった。さらに活用を意識した取組の積み重ねが必要である。
- 書かれていないこと（見えないもの）を読み取る力や複数の知識を関連付けて考える力、構造的に考えを整理する力に課題があり、今後、発達段階に応じて、知識を関連付けて考えさせるような発問や思考を深められるような発問の工夫について考えていく必要がある。

平成30年度

研究テーマ

「聴覚障害児の思考力を育てる指導の在り方」

幼稚部	発達段階に応じ、幼児が思考を巡らせることができる話し合い活動を実践していくための指導の在り方を追究する。	
小学部 中学部 高等部	『3つの「つ」』の中で、「つかむ・見通す」に焦点化し、児童生徒自らが課題を見付け、どうすれば解決できるかを主体的に考えることができるような導入の仕方について追究する。併せて、関連性に気付くことができる発問や、思考を深めることができるような発問の工夫等について追究する。	<div style="text-align: right;">3つの「つ」 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 200px;"> <p>「何を」勉強するのかな？ 今まで勉強したことと「何が」ちがうのかな？ おもしろそう。やってみたい。どうして、そうなるのかな？</p> </div> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 100px; text-align: center;"> <p>つかむ 見通す</p> </div> <div style="border: 2px solid pink; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 100px; text-align: center;"> <p>追究する</p> </div> <div style="border: 2px solid green; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 100px; text-align: center;"> <p>使ってみる 振り返る</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px; margin-bottom: 5px;"> <p>「何を」使って、「どのように」すればよいか見通しを持つ。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 2px solid pink; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 100px; margin-bottom: 5px;"> <p>「何」を使って、「どのように」すればよいか考え、説明する。</p> </div> <div style="border: 2px solid green; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 100px; margin-bottom: 5px;"> <p>学習したことを使って、「どのように」するかを考える。</p> </div> </div> </div>

公開授業研究会

- ・ 期日 平成30年11月22日（木）午後
- ・ 指導助言者 聴覚障害教育の視点から指導助言をいただく先生方

学部等	教科等	指導助言者
乳幼児教室	集団保育	愛媛大学教育学部 教授 立入 哉 先生
幼稚部	総合活動	筑波大学附属学校教育局 特任教授 松本 末男 先生
小学部	算数	東北福祉大学教育学部教育学科 教授 大西 孝志 先生
中学部	道徳	筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 准教授 脇中 起余子先生
高等部	英語	帝京平成大学 現代ライフ学部 教授 藤本 裕人 先生

※各教科等の視点から指導助言いただく先生方は、現在調整中です。

広島県立広島南特別支援学校  
住所：広島市中区吉島東二丁目10番33号  
TEL：082-244-0421 FAX：082-244-0423  
URL：<http://www.hiroshima-sd.hiroshima-c.ed.jp/>

